

## 第2回バス座談会-バス利用増加へ向けた取り組み-

### 1. 活動報告

会場：沖縄県南部合同庁舎 5階 会議室

日時：平成29年2月3日（金）14:00～17:00（3時間）

ゴール：①第一回座談会で出た課題を再度見直し、掘り下げる

②課題が解決された状態を想定し、現在から課題解決までのシナリオを考える

### 2. 参加者

沖縄都市モノレール（株）、バス4社：（株）琉球バス交通、那覇バス（株）、沖縄バス（株）、東陽バス（株）、沖縄県高等学校PTA 連合会、沖縄県老人クラブ連合会、沖縄県中小企業家同友会、那覇商工会議所、わった～バス党法入党員、沖縄県企画部交通政策課

（合計50名）

### 3. プログラム

時間	タイトル	内容
13:30	受付	
14:00	はじめに	主催者挨拶、趣旨説明
14:20	バス会社の現状報告	バスの運行状況について、各事業所より発表
14:40	課題の整理と確認	第一回座談会で出た課題を整理し、課題を確認する
15:10	ディスカッション①	バスが必要不可欠な状態（利便性が高く優先度が高い）になった時をイメージする
15:40	ディスカッション②	バス会社への提案と自分たちができることを考える
16:50	今後のスケジュールについて	第三回座談会の案内
17:00	終了	

### 4. プログラム内容

<はじめに>

目的：ファシリテーターの挨拶でこの場の意図を説明し、全体の流れを把握する

内容：第一回座談会で出てきた主な課題の確認を行い、その内容を踏まえた上での本日のプログラムであること、そしてその流れを説明した。また、前回は場の雰囲気は堅かったため、今回はアイスブレイクとして、バスに関するクイズを2問出題し、グループ対抗で競ってもらった。

結果：参加者が第一回座談会を踏まえた上での第二回座談会であることを理解した。また今後の座談会の方向性についても把握することができた。本日のプログラム内容についても理解した。アイスブレイクをしたことで、グループの雰囲気はもちろん、場の雰囲気も和やかになり、安心・安全の対話の場となった。

### <バス会社の現状報告>

**目的：**今回の本題である課題の解決策を考える前に、バス会社の現在の状況について理解し、現状に即した意見交換を行う。

**内容：**バス各社より、現在の県内でのバスの運行状況や利用促進に向けた取り組みについて報告を行った。

**結果：**現状報告をしたことで、参加者とバス会社の取り組みや運行状況についての前提情報を共有することができた。

### <課題の整理と確認>

**目的：**第一回座談会で出た課題を確認し、どの課題が一番解決すべきか、また自分自身が当事者（関わるもの）な課題は何かを整理する。

**内容：**「はじめに」で提示した課題と報告書を基に、各グループ毎（通学利用者・通勤利用者・日常利用者）で分かれ、話し合いを行った。ここでは各グループ毎に一番関わっている課題を抽出してもらうようにした。

**結果：**第一回座談会で出た課題を再確認できたと共に、参加者が課題を整理したことで、より課題が明確になり、どの課題をどのように解決する必要があるのかを考えることができた。

### <ディスカッション①>

**目的：**各課題が解決された状態をイメージすることで、解決策の糸口を見つける。

**内容：**各グループで「もし、目の前のバスの課題が解決され、みんなにとってバスが必要不可欠な交通手段になっている状態とはどんな状態だろうか？-バスが交通インフラの根幹に！-」という問いについて意見交換を行った。しかし、問いの中にある【必要不可欠】という言葉が思考するのに、難しかったため、途中で「バスが他の交通手段よりも利便性が高くなった状態はどんな状態か？」という問いに切り替えた。この問いに切り替えたことで、具体的な解決や解決までのプロセスを話し合うことができた。

**結果：**少々難しかったが、課題を解決するための方法や解決までのプロセスを参加者同士でイメージすることができ、また各グループで分けて意見交換を行ったことで、そのグループ特有の課題や視点を抽出することができた。

[ディスカッション①の様子]



### <ディスカッション②>

**目的：**ディスカッション①で考えた解決策や解決までのプロセスを基に、解決策を具体化し、バス会社へ実際に提案する。また、バス会社と市民が協力しあう必要があることを認識する。

**内容：**各グループで「バス会社へ提案したいこと」「自分たちができること」の2つについて意見

交換を行った。これまではバス会社への提案のみだったが、自分たち（各グループ）でできることも意見交換し、アイデアを出した。最後は各グループから発表を行った。

**結果：**各グループでバス会社への提案だけでなく、自分たちにできることを考えたため、これまでのように、バス会社への要望を言い合うだけでなく、バス会社と自分たちと一緒にバスの利用促進をしていこうという考えが生まれた。

<バス会社への提案と自分たちができること>

通学利用者
<p>&lt;バス会社への要望&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バス GPS 情報の公開と乗り継ぎアプリの開発</li> <li>・日中だけ高齢者は半額</li> <li>・朝早い便と朝の遅い便を増やして欲しい</li> <li>・乗り継ぎ料金を安くして欲しい</li> <li>・渋滞が多いため、バスレーンを拡充して欲しい</li> <li>・学校への遅刻をバス会社の遅延情報で証明できるようにしたい（遅延証明書） →バス車内で出して欲しい</li> <li>・バスに乗ったら Wi-Fi が使えるようにして欲しい</li> <li>・バスレーンの時間帯を伸ばして欲しい</li> </ul> <p>&lt;私たちにできること&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校単位でバスについて考える場を設ける</li> <li>・相席をする</li> <li>・高齢者に席をゆずる</li> <li>・障がい者の利用に関して配慮する</li> <li>・OKICA のチャージはできるだけ時間のある時に行く</li> <li>・発着の妨害をしない（車同士のマナー、譲り合いを心がける）</li> <li>・まずはバスに乗ってみる</li> </ul>
日常生活での利用者
<p>&lt;バス会社への要望&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バス停にバスの乗り方についてのサポーターがいて欲しい</li> <li>・病院行きピストンバスを設けて欲しい</li> <li>・イベント時の送迎ができるバスを設けて欲しい</li> <li>・停留所の時刻表を作成して欲しい（見やすくして欲しい）</li> <li>・バスを小型化して、運賃を下げたい</li> <li>・バスの停留所をもう少し分かりやすくして欲しい</li> <li>・色でわかるバスにして欲しい（宣伝のラッピングだと分かりづらい）</li> <li>・OKICA と他のポイントカードを連携させて欲しい</li> </ul> <p>&lt;私たちにできること&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バスのお得情報のチラシ配布をコミュニティー内（地域や自治会、老人クラブ連合会）</li> </ul>

内) に配布・CM できる

- ・車を使わず、なるべくバスを利用する
- ・月 1 回はバスを使う

#### 通勤利用者

##### <バス会社への要望>

- ・料金を下げたり、団体割りなどを設けて欲しい
- ・バス停の近くに駐車場を設けて欲しい（パークアンドライド）
- ・バス専用レーンの拡充で定刻運行ができるようにして欲しい
- ・サイクルアンドライドやパークアンドライドができるようにして欲しい
- ・デマンドバスの運行をして欲しい
- ・日中の割引制度を設けて欲しい
- ・全バス会社の共通定期券を発行して欲しい
- ・情報力を UP して欲しい（運行情報の公開）

##### <私たちにできること>

- ・バス停の維持管理を近隣のコミュニティーで行う
- ・地域が支える
- ・高齢者・障がい者への時間の協力
- ・ブランド力向上へ向けて、貢献する

[ディスカッション②の様子]



##### <今後のスケジュールの説明>

**目的：**今後の座談会のスケジュールを共有し、次回の参加を促す。また今後もこの話し合いが続くことを提示する。

**内容：**第三回バス座談会（2017年3月13日）に開催すること、今後どのように話し合いが展開していくかを話した。

**結果：**今回話し合った内容が一回きりではなく、継続していくことを知ることができた。次回の日程を把握できたため、参加の意欲が向上した。

#### 4. 成果

本座談会では第一回目座談会で発散した課題を少しずつ収束させていくことが大きな目的とし

て置いていた。そのため、意見交換の中では課題を掘り下げていく話し合いや実際に解決するまでのプロセスや解決方法など具体的な話をすることができた。また、最後に行ったバス会社への提案を行うプログラムでは、「自分たちができること」というワードを入れたことで、バスの利用促進のためには、バス会社だけでなく、市民県民が協力し合わなければならない、ということ全体で共有することができた。今回の大きな成果はこの部分にある。